

2013年11月11日

公益財団法人 庭野平和財団  
理事長 庭野 欽司郎 殿

住 所：東京都大田区南馬込 6-29-12, 303  
団体名：特定非営利活動法人ラオスのこども  
代表者：チャンタソン インタヴォン  
連絡先：03-3755-1603, [deknoylao@nifty.com](mailto:deknoylao@nifty.com)

## 平成24年度事業 最終報告書

1. 事業名称	ラオスの「子どもセンター」における運営能力強化事業
2. 事業実施期間	2012年8月1日～2013年8月31日
3. 事業実施場所	ラオス人民民主共和国
4. 活動報告 ①活動の目的	<p>当会が1994年より、ラオスで支援する「子どもセンター」は、日本の児童館に相当し、図書室と安全な遊び場を備え、伝統芸能や絵画、音楽、演劇、手工芸などのプログラムを持つ、ラオスでは他にない、子どもたちの活動の場である。</p> <p>近年、ラオスでは経済発展にともない、急速に市場化、都市化、観光化が進み、物的な刺激に溢れ、犯罪も急増。子どもたちは覚醒剤などの薬物汚染、誘拐、虐待などの危険にさらされている。また、都市部では学力競争が激化し、放課後や休日にも補習授業に通う児童が増加している。このような子どもたちを取り巻く環境の急激な変化の中、子どもが自由に参加し、読書や自己表現活動を通じ、自分を守る知恵や判断力、知識や情報など「生きる力」を育む拠点としてのセンターの役割はますます重要になってきている。</p> <p>センターは、子どもたちが心穏やかに伸び伸びと成長するための貴重な場所であり、継続して安定した運営が求められている。しかし、学校教育の普及も充分でないラオスで、学校教育外活動に行政の手は届かず、館長もスタッフも、組織運営やアクティビティ活動のノウハウを十分には持っていない。そのため子どもセンターが自力で質のある活動を維持することは困難であり、改善のための支援が求められている。</p> <p>これらの状況を踏まえ、当会は子どもセンターの活動費を支援するのみならず、将来自立した運営が可能となるように、資金調達やマネジメントのスキルや、新しいアクティビティのテクニックを学ぶ研修を実施し、運営能力の強化を図る。</p>
②活動の内容	<p><b>子どもセンター運営能力強化研修</b></p> <p>■日程:2012年10月3日(水)～10月8日(月) ヴィエンチャンにて実施</p> <p>以下の3部構成で、各2日間ずつ実施</p> <p>【資金調達とマネジメントのスキル】</p> <p>【読みきかせと図画工作アクティビティ】</p> <p>【合唱と詩の朗読アクティビティ】</p>

## ■研修参加者

11カ所の子どもセンターから、19名出席

- ① サイヤブリCEC:2名(ブンソム、ブアワン)
- ② ボーテンCEC:2名(ケムポー、チャンマリー)
- ③ ケンタオCEC:2名(スワナリー、ワンナポー)
- ④ パクライCEC:2名(アリー、ポーパン)
- ⑤ ヴィエンチャンCEC:2名(トンバイ、スリー)
- ⑥ ケオクーCEC:1名(シータン)
- ⑦ シーサタナークCCC:2名(センケオ、ハッサディー)
- ⑧ ポリカムサイCCC:2名(カンホーム、ソムパーン)
- ⑨ カムクードCCC:2名(チャンタモーン、カムプートーン)※自己負担で出席
- ⑩ Association of Development of Women with Disability of Vientiane:1名(チャンタヴォーン)※自己負担で出席
- ⑪ Dongsavath Children and Youth Development Center:1名(ポンサイ)※自己負担で出席

CEC:子ども教育開発センター／CCC:子ども文化センター

## ■講師

### 【資金調達とマネジメントのスキル】

ラオス事務所スタッフ

ラオス国内支援団体からのゲスト:ダラー(フォード財団)、シュワン(CWS)、スーナンター(Mobella)、カムヴィエン(Buddhist for Development Project)

### 【読みかせと図画工作アクティビティ】

ブリダー パンヤチャン:絵本作家(タイから招く)

スッパタイ ムアンタイ:作家(ボランティア)

### 【合唱と詩の朗読アクティビティ】

ダラウオン カンラヤー:ヴィエンチャンCEC講師

## ■実施内容

### 第1～2日目【資金調達とマネジメントのスキル】

各センター職員の資金調達とマネジメントのスキル形成をおこなう。活動地域で理解者や支援者を増やすための広報の仕方、支援者開拓に関する情報の提供、活動計画・報告書の作成に関する基本的なノウハウの習得をめざす

- 各センターの成果報告(パネルディスカッション風に、3団体ずつ前に出て、ファシリテーターの質問に答える形式で報告)
- 課題・問題の抽出と解決方法の提案
- 申請書作成の実践
- ラオス国内支援団体からゲストを招き、助成関する考え方など意見交換
- これまでの活動について、指定のフォームを使用し報告書作成
- 全センターによる活動報告の発表。報告に対するアドバイスやコメント

### ○各センターからの成果報告まとめ

- ✓ 多くのセンターが、自助努力で(スポンサーなどに建物の建設をしてもらわずに)、設置されている。

- ✓ ラオスの文化に関する活動が中心になっている(ラオス舞踊など)
- ✓ お寺から寄付を集め、地域からのサポートを受けている場合が多い。

○各センターの課題と解決方法の提案(各センターから出た課題をグループ化)

1. 子どもが定期的に来ない。保護者がセンターに来ることを許可しない。来館する子供の人数が減少。

[解決方法の実例]

- 時間割を提示し、いつどのアクティビティがあるかわかるようにする
- 保護者が参加するイベントを実施する

2. 地域の人々の理解が十分でない。

[解決方法]

- 地域住民に向け説明する機会を持つ(子どもセンターの意義、センターに行くことで何が得られるかなど、村の会議で話す)
- センターに関するチラシを、学校や、市場で配布する
- 成果を生み出し、それを住民、保護者に見てもらう機会を作る

3. 場所が適切でない。学校と隣接していて活動しにくい。様々な活動をおこなうためには場所が狭い。

[解決方法]

- 学校活動の迷惑にならないよう、学校の時間割に合わせ調整する

4. 先生の不足。

[解決方法]

- ボランティアを育成。ワークショップや、研修、勉強会の機会を設ける
- ボランティアをトレーナーに育て、次世代の育成役にする

5. 先生のノウハウが限られている。変わり映えないアクティビティをやるので、子どもたちはゲームセンターなどに興味を持ち、来なくなる。

6. 予算が不足している。助成の申請の仕方がわからない。出張活動のための予算がない。活動のための道具を購入するお金がない。

[解決方法]

- 5,6 については、今回の研修でノウハウを提供

○ラオス国内支援団体(企業を含む)ゲストより、支援に関するポリシーの共有

- ✓ 活動実績。助成による成果。必要性。持続発展性。
- ✓ 支援が対象の末端に届いているか。社会貢献にコミットする姿勢。
- ✓ 環境保護、文化継承、青少年の育成、子どもや家族対象の活動、貧困層や弱者を支援する活動など、団体によってテーマがある
- ✓ 会計の透明性。

これに対して、参加者からは、「どこで助成金の情報を集めれば良いのか？過去に、知った時には締め切りが過ぎていたという経験がある」「地方まで助成金情報が届かない」「センターの子どもたちは、最貧困家庭や麻薬問題などはみられないが、申請はできるのか？」といった意見や質問が寄せられた。

また、支援団体からは「資金を乞うことからではなく、まず出来ることから始め、その成果を見せる」「支援をもらった点を活動できちんと広報する」「知らない団体は支援しないので、常に広報や営業をしよう」といったアドバイスがあった。

### 第3～4日目【読みきかせと図画工作アクティビティ】

各センターのアクティビティのマンネリ化を改善するために、センター職員が新たな活動のテクニックを習得することをねらいとする。タイから講師を招き、絵本の読み聞かせと“図画工作”の創作アクティビティの指導法を学ぶ。講師は、幼稚園教諭などへの指導経験が豊かで、図画工作の教本を出版し、ラオスでの講師経験もあるブリダー氏。

- 読みきかせのデモンストレーション
- 読みきかせの練習
- 読み聞かせと図画工作を組み合わせたアクティビティ
  - 登場人物のお絵かき(三角形、四角形を用いて) <6歳向け>
  - 「点」のお絵かき<6～12歳>
  - プレゼントのお絵かき<10歳以上>
  - 読みきかせをしたお話に関するお絵かき
- 想像力を膨らませる創作アクティビティ
  - さまざまな表情を描く
  - 三角形・四角形で切り絵、貼り絵
  - 七変化する折り紙でお話を語る
  - 立体的な絵本作り
  - お話や語りに合わせて折り紙、切り絵
- アクティビティの適性年齢の説明
- 文字がない本のよみきかせの方法、様々な本の読みきかせ

### 第5～6日目【合唱と詩の朗読アクティビティ】

新しいアクティビティを実施するためのテクニックを提供。最後の2日間は、“合唱”と、伝統叙事詩「サンシンサイ」を教材に“劇”や“詩の朗読(詠唱)”に関する指導法を学ぶ。これは地方のセンターからの要望が高いもので、講師はヴィエンチャンCECで教えるダラヴォン氏

- 音楽の基礎知識(楽譜・音符の初歩、選曲方法)
- 「チャンパーの花」の合唱練習
- 合唱の教え方のデモンストレーション「CECの歌」
- 3グループに分かれて、歌を教える練習。
- 各グループの発表。講師によるコメント、改善点の指摘
- 叙事詩「サンシンサイ」の歴史について説明
- 詠唱の実施方法に関する講義、教え方のデモンストレーション
- 3グループに分かれて、「サンシンサイ」を教える練習。講師が章を選び、対象年齢を定めて練習。
- 各グループの発表。講師によるコメント、改善点の指摘
- 意欲的な参加者の表彰(センターと個人)

### 子どもセンターのプログラム支援

当初は、研修の最終日に実施するプレゼンテーションの内容で、サポートするプログラムを選定する計画であったが、研修日程中では十分な時間を確保できなかったことから、後日、申請書を提出する方式に変更。

	<p>2012年12月、各センターからの申請書を元に、支援するプログラムを、以下の6カ所のセンター17プログラムに決定。各プログラムを1年間実施するための、教材費、講師人件費、交通費(地域での読書推進活動の場合)を支援した。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① ボーテンCEC:伝統舞踊講座、伝統音楽講座、手工芸講座</li> <li>② パクライCEC:伝統音楽講座、サンシンサイ講座、地域での活動</li> <li>③ ヴィエンチャンCEC:合唱講座、サンシンサイ講座、伝統楽器講座</li> <li>④ ケオクーCEC:織物講座、伝統楽器講座</li> <li>⑤ シーサタナークCCC:絵画講座、読書推進活動</li> <li>⑥ ポリカムサイCCC:図書室運営、演劇講座、おもちゃ工作講座、10カ所の小学校における読書推進活動実施</li> </ol> <p>※サイヤブリCEC:他のセンターに比べ、運営能力や資金調達力が高く、当会以外からのサポートを得ることが可能と判断し、今年度はプログラム支援をしないこととした。</p> <p>※ケンタオCEC:これまで活動を担ってきた館長が退職となったが、後任が決まらず、活動休止状態となってしまったため、活動が再開されるまで、プログラムの支援は開始しないこととなった。</p> <p><b>スタッフの派遣</b></p> <p>2013年1月及び7月に、ラオス事務所担当スタッフを各センターに派遣し、プログラムの実施状況のモニタリングをおこなう。(市内のセンターは3ヵ月に一度程度の割合で派遣。地方の遠方のセンターは7月の1回のみ。)</p> <p>2012年10月に、運営能力強化セミナーの事業調整のために、日本から秋元波を派遣。(他事業の調整を兼ねているため、自己資金での派遣)</p> <p>2013年8月に、事業実施状況の把握のために、日本から森透を派遣。子どもセンター事業評価のワークショップと会議に参加した。</p>
<p>③活動の実施経過</p>	<p>2012年10月:運営能力強化セミナーを、6日間の日程でヴィエンチャンにて実施 11カ所の子どもセンターから、19名出席 事業調整のために日本からスタッフ1名派遣(自己資金で実施)</p> <p>2012年12月:各センターから提出された申請書から、6カ所のセンターの17プログラムへの支援を決定。</p> <p>2012年12月～ 2013年11月:支援のプログラムを各センターで実施(1年間)</p> <p>2013年1月 及び7月:プログラム実施状況の把握とアドバイスのために、ヴィエンチャン事務所の担当スタッフを派遣</p> <p>2013年8月:事業実施状況の把握のために日本からスタッフ1名を派遣</p>
<p>④活動の成果</p>	<p>[研修成果の表れ]</p> <p>3つの分野を通して、講義と実践を繰り返す研修構成にしたことにより、現場での実践に繋げることが出来た。</p> <p>研修を実施後に、各センターから当会へ支援を希望するプログラムの申請を受け付けたところ、講習で学んだことを活かし、改善された申請書を提出してき</p>

た。申請内容や実現性が明確になり、支援プログラムの決定や、後のフォローアップがしやすくなった。

#### 〔新たなプログラム展開〕

3～4 日目の「読み聞かせと図画工作のアクティビティ」の講座で得たテクニックを図書室活動に活かしたり、工作の講座を実施するセンター、5～6 日目に学んだ「サンシンサイ」の詠唱の講座を始めたセンターなどがみられた。

また、講師からの「身近で実施できることから始める」というアドバイスを活かし、地方でも指導者を見つけやすい「織物」や「伝統楽器」の講座を始めたセンター。地域の理解を得ることが、来館者数の増加や資金調達にとって重要であるということが研修中に語られたことから、地域の人々にアピールするための活動プログラムを提案するセンターもみられた。

#### 〔参加者からの評価〕

参加者からは、新しいテクニックを学ぶ機会を得たことを喜ぶ声が高く、実践的な内容の研修が好評価であった。特に、近年センターのスタッフになった人からは、「研修の機会がなかったので、子ども達との具体的な活動の仕方がわかり、非常に役立った」という声が聞かれた。多数の参加者から、このような研修を毎年おこなって欲しいという要望が寄せられている。

#### 〔センター間の経験共有、ネットワーク作り〕

センター同士がお互いの課題や成果等を把握し、課題の解決法や対処法について他のセンターの経験を共有することができた。

センターを管轄する行政区分は、教育スポーツ省、情報文化観光省に分かれており、さらに、今回自費参加した NPA(ラオス国内の Non-profit Association)は、どちらの管轄にも属さないもので、これらのセンター・団体が一堂に会し、経験共有することは稀である。管轄や活動地域は異なるが、同じミッションのために活動する団体が集まり相互に学び合う機会を得たことは大きい。このようなネットワークが今後の活動を支える励み、一つの機能となることが期待できる。

また、新しく設置されたカムカード CCC や他にラオスで活動する団体が費用を自己負担しながら参加したことは、各参加者にとって良い刺激となった。障害者支援活動をおこなう団体からの参加があったことも、他の参加者と異なる視点での発言があり、幅広い意見交換に繋がった。

#### 〔子どもたちの参加による波及効果〕

研修は、当会ヴィエンチャン事務所の併設図書館で開催した。19 名の参加者が作業やグループ練習をするには若干手狭であったが、子どもたちがいる空間での研修はプラスの効果があった。3～6 日目の研修では、デモンストレーションや実践練習に子ども達に加わったことから、講習内容が机上で終わらず、内容が深まった。読み聞かせでは、子どもたちの反応が参加者に伝わり、合唱や詠唱では子どもの習得のプロセスを参加者が体験できた。また、工作では理解の早い子どもが、先生に教える場面がみられ、子どもがボランティアとなり講座をサポートできることを体験することに繋がった。

<p>⑤今後の課題</p>	<p>現場での実践に繋げる構成にし、非常に充実した内容の研修ではあったが、やや内容を詰め込みすぎた感がある。この機会に、事前に把握した各センターのニーズに応えるべく、様々な内容を取り入れたが、各テーマ毎の時間が短くなり、十分に内容を習得できない部分があったのではないかと考える。特に運営については参加者の経験値にも差があり、研修内容を吸収できた参加者と消化不良のままだった参加者がいた。今後実施する際は、1回の研修での内容を絞り、複数の研修機会を設けるようにしたい。</p> <p>参加者によっては、詠唱を教えることを恥ずかしがったり、絵を描く際に隠してしまったりする人もいた。子どもたちを指導するテクニックの実践練習というより、教えられたことを再現するのに精一杯になってしまう様子が少なからず見られた。新しいセンターのスタッフには、子ども達との活動経験がない人もおり、未経験の活動に精一杯になるのは仕方ないが、研修後に練習を重ね、各センターでの実践に繋げられるようフォローアップが必要である。</p> <p>また、目標のひとつである資金調達については、新規の支援を獲得できたという報告はまだなく、十分な成果に結びついていない。各センターが活発な活動を続け、自立運営していくためには、引き続き、研修の機会や刺激、フォローアップが欠かせないと考える。</p>
---------------	--

添付資料

- ・活動掲載紙 当会発行のニュースレター「ラオスのこども通信」56号  
 <1頁に本事業の研修の報告を記載>
- ・当会ホームページに掲載した研修に関するブログ記事のコピー